

ふぞく新聞

6月2日(水)

Vol. 1
(Vol.122)

声掛けで、変わる

ふぞく幼稚園には二歳の誕生日を迎えると参加が可能となる未就園児教室(Ⅱさくらんぼクラブ)があります。

地域の方の子育て支援の一環として、又この教室に参加することで、ふぞく幼稚園のことを知って頂き、入園を検討して頂けたらという二つのねらいのもと行っています。

そのさくらんぼクラブで、ボウリング遊びをしていた時のことです。

子ども達はボールを持って嬉しそうに並んでいます。その時、順番を守れず我先に投げようとするお友達がいました。そんな時、順番だよ」と声を掛けがちですが、僕は「一番後ろに並ぶとボウリング出来るよ」と声を掛けるようになっています。(順番)と言ってしまっことも多々ありますが…)

さて、上段の話の続きです。順番だよ」という声掛けは間違いではありません。最終的にはそこに気付いて欲しいのですが、まだ二歳児です。中には二歳になったばかりのお友達もいるのです。

『投げたい』のです。『その遊びを楽しんでいる』のです。別に割り込んで順番を抜かしてやろう』というのではないのです。

だから『遊びに参加出来ること』を示してあげる(保障すること)がポイントなのです。

順番だよ」という声掛けは、悪い意味では決してないのですが、『ど』か『下』がある言葉に聞こえます。(きつと注意という要素が強いのでしよう)そして、その後が大切です。

子ども達は、後ろに並び、そしてボールを投げます。ピンが何本倒れたかよりも、まず偉かったねえ」ちゃんと並べたねえ」順番守れたねえ」と声を掛けるのです。

独り言

今年度も『ふぞく新聞』を書かせて頂きます。

『ふぞく新聞』って何?と思われる方、それは、年数は重ねたものの、子ども達の助けを常に借りながら日々保育をしている幼稚園園長が、子ども達と遊び、過ごさせてもらった中で感じたことを思うがままに書いたものです。

当園の方針は『子ども達の遊びを応援する幼稚園』です。その応援方法の一つとして、この『ふぞく新聞』を通して子ども達の気持ち・言い分・心等々を父母の方に伝えていきたいと思っています。勿論これらが全て正しいわけではありません。でも少しほんの少しでもいい頭の片隅にという願いもあります。 柿原勝

ふぞく新聞

7月20日(火)

Vol. 2

(Vol.123)

準備や片付けは大変だけど・・・

ふぞく幼稚園は、体験重視という考えのもと、園バスに乗って近隣の公園等に遊びに出掛けたり、実際に食べたりすることがよくあります。この園外保育に対して、特に準備がいろいろなから先生方、らくそう」と思われる方がいるかもしれませんが、それは全くの逆です。まず下見に行きます。そして、その公園で危険な場所はないか、年齢にあった遊び場かどうか等を再確認してきます。公園によっては、遊具等を持って行く時もありますから前日に準備を万全にしておく必要があります。そして、一番の心配は天候です。雨や気温が低い時は室内遊びに変更するわけですから、その準備もいるのです。

僕自身も担任を持っていた時、園外保育をよく取り入れました。子ども達に、明日は、〇〇公園に行くよ」と前日の帰りの会で伝えると「やったー」と歓声があがります。その歓声を聞くと、大変ですが、やはりどんどん行きたいという気持ちになるのです。

ただ、上段の最後でも述べたように、天候によって、中止になった時が大変なのです。子ども達は、園外保育を楽しみにしているわけですから、その楽しみに負けない何かをしないと「えー、面白くない」と言われてしまうからです。

この間、年中組は園外保育で海に行く予定でしたが、雨で延期となりました。その時に、担任の先生達は海に負けない遊び(片栗粉遊び)を用意していました。その遊びは、片付けがとて大変な遊びなのですが、子ども達はやはり大喜びでした。

独り言

いくら子ども達が喜んでくれるといても、一人黙々と準備や片付けをするのは大変なことです。

僕自身、実際に「もー」と思ったことも何度かありました。

だから、担任の先生達が、準備の大変な流しそうめん等の保育をするのを見たり、片付けがとて大変な片栗粉遊び等を取り入れる姿勢には心から「素晴らしいなあ」と思うのです。

準備や片付け等を手伝って支えている担任以外の先生方の存在も大きいです。

スタートは、子ども達が楽しいと感じてもらおうことだと僕は思っています。その上で、色々なことを肉付けしていけば良いのです。柿原 勝

ふぞく新聞

7月21日(水)

Vol. 3

(Vol.124)

子ども達の気持ちをもとに 保育者がエッセンスを加える！

ふぞく幼稚園では、色々な遊びが流行っています。今、僕がよく誘われる遊びが、『サッカー』です。どの遊びも子ども達から提案があがり、それをもとに僕が少し脚色をしています。

『サッカー』は例年と違ってワールドカップの影響を受けています。ある園児の『僕(のチームは)、『ドイツ』』という声をもとに、『それじゃあ、ドイツ(黄色帽子) 対オランダ(オレンジ帽子)で勝負しよう』と提案し、気分を高めます。

更に、『試合をしながら『おっと○○君、スーパースーブです』とか、『△△君、ナイスフェイントです』と解説を入れていきます。そして最後にMVPを発表するのです。するといつもよりかなり盛り上がるのです。

『戦い』(チャンバラ)も子ども

達から『仮面ライダー』と提案が

あったので、始めは僕が敵役になって子ども

達と楽しみます。十分楽しんだ頃合いをみ

て、『仮面ライダー』とか、良い者・悪者じゃ

なくて、『紫(帽子) チームと黄色(帽子)

チームで対決しよう』と試してみました。

新聞紙の剣を使つての遊び方もだいぶ上手

になってきたので、友達を意識してもらおう

と、仲間を助けたり、助けられたりする

ことでより仲間意識を強く持つてもらいた

いという願いを込めています。

『チャンバラ』はテレビの影響ですが、テ

レビを知らない園児も楽しめるようなル

ルにアレンジして行っています。

大人(保育者)が全て決めてはいけけないので

す。子ども達の気持ちを汲むことで、遊び

が自然と深まるのです。

独り言

上段の話だけを
読むと、いかにも
子ども達のことを
何でも知っている
かのように書いて
いますが、幼稚園
で勤め始めた頃の
僕は、自分勝手な
遊びをしていたも
のです。(恥ずかしい)

勿論その当時
は、それで良いと
思い込んでいまし
た。子ども達と体
を使つて遊ぶこと
が大事と思ってい
たのです。

確かに遊ばない
よりは良いです
が、子ども達の気
持ちは優先せず、
僕のしたい遊びを
押しつけていたの
が良くなかったで
す。多数の子ども
達に人気がある遊
びばかりをしてい
ました。当時は少
数派を無視してい
たのです。

子ども達は本当
に色々なことを教
えてくれます。感
謝です。 柿原 勝

ふぞく新聞

1月19日(水)

Vol. 4
(Vol.125)

好きと嫌いと良いと悪い

子ども達には、『みんなと仲良くすることの大切さ』を示していく必要を感じつつ、それだけではどうも納得できないだろうなあ・・・と感ずることや、それちょっと怖いなあ・・・と感ずることがあります。

具体的にどのようなことを言っているのかというところ、ある園児が怒っているのです。その園児の言い分は、たいてい、〇〇がまた・・・というのです。

『この間謝ったけど、またしたから今度は許さな』というのです。「(個人的に)このような意見を言う子どもは大好きです。自分の考えをしっかりと持っていると感じるからです」

ある園児が、△△が悪い!とよく状況も確認しないで言っているのです。▽△にもちゃんと理由はあったのです』さて、このような場合・・・。

僕は、子ども達同士が喧嘩をしたり、気持ちをぶつけあう衝突はとても大切だと常々思っています。

子ども達同士で解決出来て、また一緒に楽しく遊べれば本当に良いのですが、ただ場合によっては仲裁が必要なこともあります。

その仲裁に入る際に気をつけていることが、好きと嫌い、良いと悪いの四つをしっかりと区別して話を聞くようにしています。

子ども達は、好きなお友達だと悪いことをしていても許してしまう時があります。逆に嫌いな(苦手な)お友達だと良いことをしていても、なかなかその良いことを認めることが出来ないように感じます。

実は大人も同じで、この四つの区別をしっかりと対応していかないと社会はいつまでたっても未熟なままだと思うのです。良いところ探しにも繋がる話だと思います。

独り言

ふぞく新聞で今回の内容を書くことには正直ためらいがありました。

なぜなら、「この内容に出てくる〇〇って、△△ってもしかして家の子ですか?」ということに視点が向いてしまう傾向にあるからです。

それでも、今回この内容を書いたのは、ある本に『認める』ことについて同じように書いてあったのを読んだからです。その本には以下のようにありました。

相性があるからどうしてもウマが合わない人がいるけど、その人が良いことをした時はしっかりと良いと認めることで社会はより良くなっていくというものです。社会(幼稚園)で育つ大切な意識だと思い書きました。柿原 勝

ふぞく新聞

2月25日(金)

Vol. 5
(Vol.126)

楽しいからこそ・・・。

子ども達と遊んでいて感じることは、**楽しいこと**に対してはとても吸収が早いと感じます。例えばルールが少し難しかったとしても、それ以上に楽しさが上回るようです。

保育でも同じです。子ども達を引きつけるには、その活動そのものが**楽しいこと**でなければ、どうしても飽きてくるのです。

飽きてくれば、注意の回数が自然と増えていきどうしても嫌な雰囲気になるのです。

勘違いして欲しくないのは、**我慢しなくて良い**とか、**楽しくないものはダメだ**等と言っているのではなく、**楽しいこと**を取り入れることで、子ども達の良い姿(集中している面や積極的な面)をたくさん見つける機会が増えて、子ども達を自然と誉めることに繋がるのです。

園外保育をたくさん取りいれているのはまさにその一つです。

楽しいという環境を子ども達に提供していくのです。

そして、ただ楽しかったで終わらせないことが保育者に求められているポイントというても良いでしょう。

園外保育も、お部屋の保育も、保育者の**ねらい**（＝願い・思い）がしっかりしていれば、声掛けが変わってきます。

この時期、ふぞく幼稚園では年長組が最後の園外保育ということで、**釧路動物園**（＝そり滑り）と**ホースパーク**に行きます。

そり遊びを通じて、順番等を自然と伝えることも出来ます。馬と関わる時間を通じて、生き物について触れることも出来ます。

馬そりを通じて、**大きさ・重さ・力**といったことも伝えることが出来るのです。

独り言

幼児教育の「遊び」が小学校の「学び」へと繋がっていることをかなり意識して声を掛けていきます。

その際に、「**学び**」の部分強く主張し過ぎれば、子ども達は逆に興味を示さなくなります。

しかし、何も触れなければ「**遊び**」の力を半減することにもなります。保育の奥深いところはまさにこのさじ加減が子ども達の状態によっていつも違うというところかもしれません。

同じ年長さんだから毎年同じでは決してなく、その年その年でカラーが違うのです。でも共通点も確かにあるのです。

基本をしっかり踏まえつつ、柔軟な心を持つことです。
柿原 勝